

意思疎通の現状と課題について

宮川委員

●意思疎通…「ことば「ひととの関わり」

「ことば」…考えるときの道具、行動をコントロール、コミュニケーション手段
人間として生まれ、人との関わりの中で人間的な成長をしていくためには「ことば」
は不可欠。

●過去において、ろう学校の中で長い間手話が禁止されていた。ろう児のいる家庭でも
手話は忌み嫌われていた。

聞こえないことは、よくないこと。聞こえることがよいこと。聞こえる人に近づける
教育。→厳しい口話教育

↓

- ・音声言語(日本語)、手話言語、いずれもことばの獲得が困難な人が存在する。
- ・人との関係が作れない。聞こえる人の言うことが正しい。逆ったらダメ。
- ・手話は日本語と比べると劣っている — 手話に対する偏見

「手話は言語である」と法律の中に明記された現在においても変わっていない。

↓

意思疎通を考える前提として、ろう児が第一言語の母語として手話を獲得する環境の整備、手話に誇りを持って自由に使うことができる環境整備が必要。

ろう者にとってはその前提があり、音声言語(日本語)を獲得している人たちと初めて意思疎通を考えるスタートラインにつくことができる。